一年　ステップ２　解答

９　古文１　古典の仮名遣い

組	番号	氏名

1　次は、「徒然草」の冒頭の部分です。――部をそれぞれ現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

【平成二十一年度　全国学力調査・改題】

つれづれなるままに、日暮らし、硯（すずり）にむかひて、心にうつりゆくよしなしごとを、そこはかとなく書きつくれば、あやしうこそものぐるほしけれ。

あやしう → あやしゅう

ものぐるほしけれ → ものぐるおしけれ

注 声に出して確認しよう。

2　次の和歌の――部をそれぞれ現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

陸奥（みちのく）の　しのぶもぢずり　誰（たれ）ゆゑに　乱れそめにし　我（われ）ならなくに

いにしへの　奈良（なら）の都（みやこ）の　八重桜（やへざくら）　けふ九重（ここのへ）に　にほひぬるかな

（「小倉百人一首」より）

ゆゑに → ゆえに

けふ → きょう

にほひぬるかな → においぬるかな